

海外での日本語教育実習
—中央民族大学との共同による、博士前期課程学生を対象とした
日本語教育専門家養成プログラム—

Japanese Teaching Practice Overseas:
Specialist Training Program in Japanese Language Education for Students in the Chiba
University Master's Course in Collaboration with Minzu University of China

阿部響子・吉羽千裕・佐藤尚子
ABE, Kyoko・YOSHIBA, Chihiro・SATO, Naoko

要旨

千葉大学では、協定大学である中国・中央民族大学と共同で2013年3月9日から16日まで日本語教育学を専攻する人文社会科学研究科博士前期課程1年生2名を対象とした日本語教育専門家養成プログラムを実施した。教育実習における実習生の担当課は『総合日本語 I』第15課であった。教育実習が行われる1年前より「日本語文法教育論」科目において初級日本語教科書の分析等を行い、準備を行った。教育実習期間は実習の他、日本語学科1年生および2年生の日本語科目の授業見学、実習生の企画による日本文化紹介、そして日本語学科の学生と交流を行った。実習前は、直接法による授業を行う事に対する不安もあったが、実習クラスの学生からは新鮮な教え方で学習項目の理解にも役立ったという肯定的な評価を得た。

Abstract

A specialist training program was conducted by Chiba University in collaboration with Minzu University of China from 9th to 16th March, 2013 for two Chiba University master's course students who specialize in Japanese language education. During the teaching practice sessions the two teacher trainees were asked to teach Lesson 15 of *Sōgō Nihongo I* using the direct method to first year students at the Japanese Language Department at Minzu. Preparation for this program, which was part of master's coursework in the theory of Japanese grammar education, took one year and included the analysis of Japanese language textbooks for beginners. Class observation, interaction with local students, and introduction of Japanese culture complemented the teaching practice. Teaching sessions received a positive class evaluation dispelling the trainees' earlier uncertainty about using the direct method.

1. はじめに

千葉大学では、協定大学である中国・中央民族大学と共同で2013年3月9日から16日まで日本語教育学を専攻する人文社会科学研究科博士前期課程1年生2名を対象とした日本語教育専門家養成プログラムを実施した。このプログラムは、中央民族大学と共同し、将来、日本語教育の専門家になることを目指す学生に海外での教育実習の機会を提供し、優秀な日本語教育の専門家を養成することを目的としている。本稿はその報告である。

このプログラムは平成24年度千葉大学国際交流公募事業「交流協定校との海外学修プログラム」の一つとして行われた。実施にあたり、千葉大学SEEDS基金、人文社会科学研究科長裁量経費の助成、補助を受けた。

2. 教育実習の準備

2.1 初級教科書の分析

教育実習が行われる1年前より人文社会科学研究科前期課程で開講されている「日本語文法教育論」科目(担当:佐藤)において、文法項目を中心に初級日本語教科書の分析を始めた。2013年度前期においては、初級教科書間の比較を行い、『みんなの日本語初級Ⅰ』、『みんなの日本語初級Ⅱ』と『初級日本語げんきⅠ』、『初級日本語げんきⅡ』をその対象とした。また、『みんなの日本語初級Ⅰ』、『みんなの日本語初級Ⅱ』については、学習者向けに出版されている中国語と英語の文法解説書における文法説明の記述も比較検討した。『初級日本語げんきⅠ』、『初級日本語げんきⅡ』については、教科書に記述されている文法説明についての検討を行った。

2.2 実習で用いる教科書の分析

2013年度後期からは、中央民族大学の日本語学科1年生が実際に使用している北京大学出版の『総合日本語Ⅰ』と『総合日本語Ⅱ』の教科書分析を行った。『総合日本語』は、4技能を総合的に学ぶことを目的とした教科書構成となっており、『総合日本語Ⅰ』は第1課から第15課まで、『総合日本語Ⅱ』は第16課から第30課までである。各課の多くは3つのユニットで構成されている。ユニット1とユニット2には会話文が示され、ユニット3は読解文が示されている。また、そこで使用されている新出語彙や新出文型の説明が中国語で記述されている。

2013年度後期は、『総合日本語』の各課の分析を行うことにより、取り上げられている場面、文型、語彙を把握した。

2.3 教案作成と模擬授業

教育実習における実習生の担当課は『総合日本語Ⅰ』の最終課である第15課であった。第15課のユニットごとに扱う場面、主な学習項目は表1の通りである。

表1 第15課の内容

第15課	ユニット	場面	学習項目
	ユニット1	会話： コンパの相談	① V (よ) う<意志>②～と思う③ V る予定だ<計画> ④～かどうか<選択>⑤ V たことがある<経験>⑥～ だろう<推測>
	ユニット2	会話： コンパ	あげる/くれる/もらう<授受>② V ることがある<低 頻率>③ V るつもりだ<打算>
	ユニット3	読解文： 手紙	①ばかり<限定>

日本語学科1年生の授業スケジュールでは、1日1ユニット進み、3日で1課が終了するとのことであった。教育実習でも同様に進んだ。教育実習では、1コマ90分の授業を実習生2名がチームティーチングで行ったが、1コマを前半と後半に分け、それぞれで授業をリードする役割と補佐する役割を交替することにした。

教案作成では、それぞれの授業の前半と後半の繋がりを重視し、学生2名がユニットごとに分担して行った。授業は直接法で指導することを前提とし教案を作成し、教案作成と並行して絵カードや写真、文字カードの準備も行った。

各ユニットの模擬授業も行い、教案の再検討や教材の検討も行った。また、学習者の既習項目についての定着状況がわからなかったため、導入項目において既習項目の知識が必要となる場合、既習項目の復習ができるように活用リストなども準備した。

学習者の既習項目の定着度に応じて、既習項目の復習を授業あるいは宿題で取り入れられるよう準備した。

授業の教案、教材作成以外に、実習のフィードバックのため最終日に学生に記入してもらった授業評価シートと文化紹介として行う「映画鑑賞会」の資料を作成した。

3. 教育実習期間

3.1 スケジュール

教育実習期間は実習の他、日本語学科1年生および2年生の日本語科目の授業見学、実習生の企画による日本文化紹介、そして日本語学科の学生と交流をすることができた。

表2は実習期間のスケジュールである。実習は3月12日、3月13日、3月15日の3回にわたり実施された。

表2 教育実習期間のスケジュール

	午前	午後
3月9日(土)	中国・北京へ向け出国	
3月10日(日)	中央民族大学キャンパス等の見学	
3月11日(月)	実習クラスの授業見学、自己紹介	2年生の読解クラスを見学
3月12日(火)	実習(第1回) 第15課 ユニット1	実習の反省、翌日の授業準備
3月13日(水)	1年生の聴解のクラス、 1年生の会話のクラスを見学	実習(第2回) 第15課 ユニット2 実習の反省、翌日の準備
3月14日(木)	文化紹介の準備等	19:00~21:00 文化紹介「映画鑑賞会」 翌日の授業準備
3月15日(金)	実習(第3回) 第15課 ユニット3	
3月16日(土)	帰国	

3.2 実習クラスの概要

実習を行った中央民族大学 (Minzu University of Chiba) は、中国・北京の西に位置し、中国における少数民族教育、少数民族研究でよく知られている。中国の56民族全てが集う大学であり、1万5千人の学生のうち約65%が少数民族出身者である。少数民族研究に関わる学部その他、23の文系学部及び理系学部がある。日本語学科は、外国語学院(外国語学部)の一つとして設置されている。¹⁾

実習を行った日本語学科1年生のクラスは、21名(女:17名、男:4名)で構成されている。実習を行った時期は、日本語学科1年生が大学に入学し半年を過ぎた頃であり、2学期の初めであった。なお、中央民族大学日本語学科1年生の時間割は資料1のとおりである。

3.3 教育実習

3.3.1 実習(第1回)『総合日語』第15課ユニット1

初回の授業の始めに、名札作成と自己紹介を行う活動を取り入れ学生の名前を把握した。また、実習生も改めて自己紹介を行い、その後授業を始めた。授業前半は、「~と思う」、「V(よ)うと思う」、「Vようと思って、~」、「予定です」を、後半は「~かどうか」、「Vたことがある」、「~だろう」の学習項目の導入と練習を行った。学習項目を提示・導入する際は、実習生のモデル会話や絵カード、日本で撮った写真などを用いて行い、その後口頭練習に移った。そして授業の後半には、応用的な練習として、実習生2人によるモデル会話の後、学生もペアになり、自身の経験を「Vたことがある」を用いて述べる会話練習を行った。

また、毎回の実習の後は、録画したビデオで授業の様子を確認した。初回の授業では、実習生の発話速度や発話のタイミング、教材提示の仕方などについて反省を行った。

3.3.2 実習（第2回）『総合日语』第15課ユニット2

実習2回目は、初回の授業の反省から話し方や教材の見せ方にも注意しながら進めた。授業前半では、「あげる」「くれる」「もらう」の授受表現を中心に導入・練習を行った。まず、実習生2人がプレゼントを模した紙箱の受け渡しを行い、その行為を「AさんはBさんにプレゼントをあげます」のような「あげる」「くれる」「もらう」のモデル文を声に出しながら学習者に示した。各文型を黒板に文字カードで提示した後、「あげる」の学習に移行した。再度実習生同士でモデル文を提示した後、プレゼントを回し、その際に「私は～さんにプレゼントをあげます」という文を声に出しながら次の人にプレゼントを渡すチェンドリルを行った。その後、教科書の練習問題をコーラス及び指名形式で行い、「くれる」「もらう」の練習も同様に行った。この3項目すべての練習が一通り終了した段階で、これらを混ぜて声に出させる練習をチェンドリルで行った。その際はクラスを数人のグループに分け、物の受け渡しをしながら練習をし、最後に応用練習として、授受表現を用い実際にあげた物やもらった物についての発表を行った。

授業の後半は、授受表現以外の「Vることがある」と「Vるつもりだ」を中心に行った。また、前日の実習で提示した「～かどうか」の定着があまりよくなかったことから、「～かどうか」の復習を行った。授業の最後には、「～Vることがある」の練習として、実習生の「～さん、休みの日は何をしますか。」の問いに対し、「～することもありますが、～。」という文型を使用して返答することも行った。

3.3.3 実習（第3回）『総合日语』第15課ユニット3

最終回の授業前半は、まず教科書にある手紙文の音読と内容の確認をした後、新たに学習項目として挙げられている「ばかり」の導入と練習を行った。教科書では、親しい間柄である家族に宛てた手紙文が読解として載せられていたが、今回の実習では、親しい間柄ではなく、先生に宛てたフォーマルな手紙を書くことを目的とした。そこで手紙の内容を「日本に帰った日本人教師に近況を伝える手紙を書く」というものに変更した。

手紙の書き方については、補助教材として実習生が作成したモデル文、手紙の書き方、封筒の書き方のプリントを配り、説明を行った。モデルテキストには第15課のユニット1、ユニット2で学習した文法項目を取り入れた。説明を20分程度行い、残りの時間は実際に手紙を書く時間に充てた。学習者の書いた文章は、実習生2人で分担して添削指導を行った後、学生に清書させた。

授業後半は、前半に引き続き手紙の作成及び添削指導を行った。特に添削を行っていて気になった点は、字形、句読点、カギ括弧の書き方、カタカナ語の長音、拗音の表記であった。また、簡体字で書かれている漢字も多く見られた。添削を終えた学生は、清書と封筒の宛名書きも行い、最終的には全員が一人一通手紙を書き終えた。授業の最後には、学生が書いた手紙を発表する時間を設けた。

授業内容は以上だが、授業時間内の最後の10分程度を利用し、今回の実習に対する評

価アンケートを行った。学生によるアンケートの回答は後述する。

3.3.4 文化紹介 (2013年3月14日)

3月14日には日本の文化紹介として、希望者を募り「映画鑑賞会」を行った。映画鑑賞会には実習クラスの学生だけではなく、日本文化サークルで活動している他学科の学生、また日本から留学に来ている日本人学生も参加してくれ、40名程の学生が集まった。今回鑑賞したのは、『ダーリンは外国人』という映画である。学生が日本の生活習慣を知ることができる内容であること、ストーリーが複雑ではなく、日本語初級レベルであっても内容を理解できると予想したことからこの映画を選択した。なお、音声は日本語、字幕を英語とした。

映画鑑賞後には、周りの人と円になって映画を見て気付いたことを話し合う時間を設けた。その際、映画の中に出てくる日本の生活習慣と中国の生活習慣の違い等も話し合った。幸いにも中央民族大学に留学している日本人学生が数名参加したことから、自然と話し合いが活発になり、有意義な時間となった。

4. 授業評価

4.1 学生による授業評価

実習最終日には、学生に対し授業評価アンケートを実施した。以下がその結果である。質問1から質問7は選択肢から選んでもらい、質問8から質問12は記述式で回答してもらった。回答が中国語で書かれている場合は適宜翻訳した（アンケート用紙は資料2を参照）。

【質問1】勉強した内容はわかりましたか。

(選択肢：わからなかった、あまりわからなかった、ふつう、わかった、よくわかった)

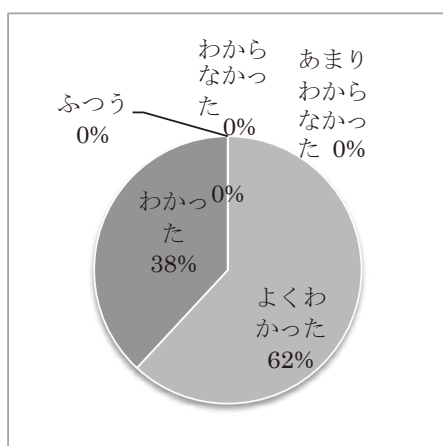


図1 質問1の回答

質問1では、授業内容の理解度を問うた。結果は図1の通りである。図1より、全員が「わかった」と「よくわかった」を選択しており、学習項目の理解は達成することができたと考えられる。

【質問2】 授業は役に立ちましたか。

(選択肢：役に立たなかった、あまり役に立たなかった、普通、役に立った、とても役に立った)

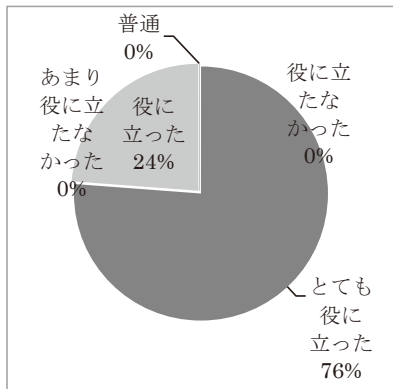


図2 質問2の回答

質問2では、授業内容がどの程度役立ったかを問うた。図2の結果から、7割以上の学生が「とても役に立った」と評価していることがわかる。また、質問9の記述アンケートにおいても「手紙の書き方など、非常に実用的であった」といった感想が多く見られ、このような点が評価されたと考えられる。

【質問3】 進み方はどうでしたか。

(選択肢：おそかった、ちょうどよかった、速かった)

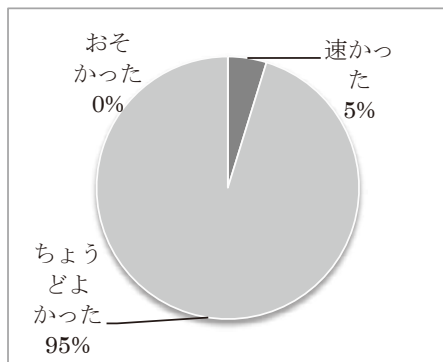


図3 質問3の回答

質問3では、授業の進め方のスピードを問うた。授業は、新しい学習項目の提示と導入、練習、そして応用練習という流れで進めていったが、その進度については図3の結果からも分かるように「ちょうど良かった」という回答が9割以上を占めた。

【質問4】 教え方はどうでしたか。

(選択肢：良くない、あまり良くない、ふつう、良い、とても良い)

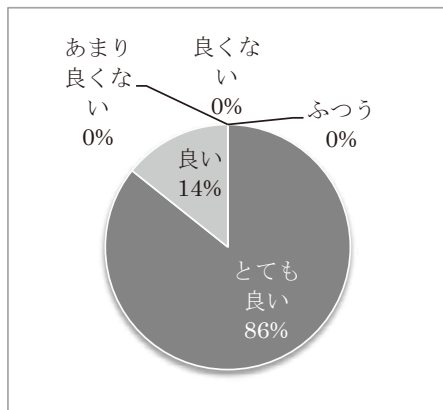


図4 質問4の回答

質問4では、実習者の教え方について問うた。図4から、全員が「良い」「とても良い」と評価していることがわかるが、これは記述アンケートでも見受けられる「新鮮さ」「目新しさ」によって学習意欲を掻き立てられたことが関わっていると考えられる。

【質問5】直接法はどうでしたか。

(選択肢：日本語がいっぱい聞けて良かった、中国語があったほうが良かった、その他)

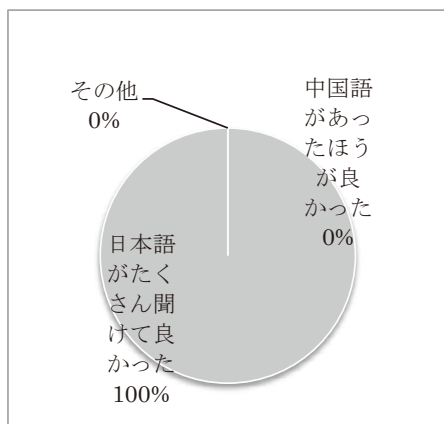


図5 質問5の回答

質問5では、直接法による授業について問うた。実習では、文法説明なども日本語で行ったが、全員が「日本語がたくさん聞けて良かった」と肯定的な感想を持ったようである(図5参照)。

【質問6】宿題の量はどうでしたか。

(選択肢：少なかった、ちょうど良かった、多かった)

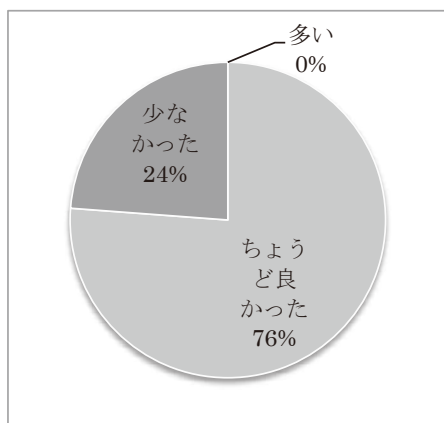


図6 質問6の回答

質問6では、宿題の量を問うた。宿題はA4用紙1枚ほどの授業の復習シートを出した。宿題の量については「ちょうど良かった」という回答が最も多かったが、「少なかった」という回答も24%あった(図6参照)。また、多いと答えた人はおらず、学生の学習意欲の高さが見受けられた。

【質問7】あなたはいつも日本語の授業のために家でどれくらい勉強していますか。

(選択肢：1時間未満、1～3時間、5時間以上)

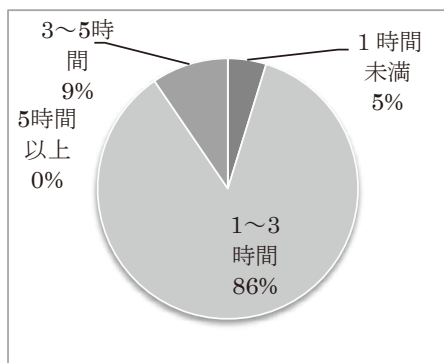


図7 質問7の回答

質問7では、普段の日本語の授業のためにどれくらいの勉強時間を充てているかを問うた。その結果、学生によっては1時間未満と3～5時間未満で大きな差も見られるが、1～3時間が最も多いということが明らかとなった(図7参照)。これは資料1の時間割からもわかるように、日本語学科の学生も英語など、日本語以外の授業が多くあるため、日本語科目のみに専念する時間がないことと関連している可能性がある。

【質問8】「あげる」「くれる」「もらう」の授業の内容はどうでしたか。感想を書いてください。

感想の一例は、以下の通りであった。

- ・中国語と比較すると少し複雑で難しかったが、教室で先生が実演してくれたので理解することが出来た。
- ・とても新鮮な教え方だった。クラスメイトとの間でプレゼントを交換したことで、理解が深まった。
- ・生き生きとした授業で、内容も覚えやすかった。たくさんの図や道具を使い、面白くわかりやすく学習できた。

質問8の記述からは、「あげる」「くれる」「もらう」を実際に物のやりとりの動作を行いながら練習をしたことにより、理解が深まったという回答が多く見られた。

【質問9】手紙を書くという授業の内容はどうでしたか。感想を書いてください。

感想の一例は、以下の通りであった。

- ・実用的だった。どうやって手紙を書いたらよいかを知ることが出来た。
- ・日本の手紙の書き方と中国の書き方は少し違った。親しい友人と、目上の人に対する形式が違うことを知った。
- ・語法だけでなく、習慣も理解が出来て面白かった。
- ・自信が持てた。書き終わったときに達成感があった。
- ・とても新鮮で実用的。日本式の手紙の書き方を体験でき、とてもよかった。

質問9の記述からは、手紙の書き方を知ることができただけでなく、日本の手紙の習慣について理解を深められたという感想が多かった。また、日本から持参した便箋に手紙を書き、実習生が添削を行った上で清書と封筒の宛名書きをするという一連の活動により、学生は達成感を得られたようである。

【質問10】授業の内容で、もっと知りたかったことがあれば書いてください。

感想の一例は、以下の通りであった。

- ・日本に留学することについて
- ・日本の文化や礼儀
- ・日本の今の生活や、面白い文化やイベント
- ・日本での教え方と、今回の授業の教え方は一緒なのか知りたい

質問 10 に対しては様々な回答があったが、多くは日本の文化や習慣について知りたいというものであった。また、教授法について関心を持った学生もいたようである。

【質問 11】 授業の中で役立ったことがあれば、どんなことだったか書いてください。

感想の一例は、以下の通りであった。

- ・ 教室内での先生の実演が理解を深め、知識として記憶に残った。
- ・ 先生の絵・文字カードと先生の教え方・演技
- ・ 先生たちの教え方は非常に生き生きとしていた。多くの日本のものを見ることができ、理解が促された。
- ・ 先生と学生との交流と練習

質問 11 については、直接法による指導が学生にとって新鮮であり、それが学習に役立ったという感想が多く見られた。また、実習生によるモデル会話や日本から準備した教材が理解に役立ったようである。

【質問 12】 先生に対する要望があれば書いてください。

感想の一例は、以下の通りであった。

- ・ 先生はとてもよかった。もっと単語を教えてほしかった。
- ・ 先生はよかった。教科書を読むとき、もう少しゆっくり読んでくれれば、更によい。
- ・ また先生たちに私たちの授業をしてもらいたい。また、この教え方を継続してもらいたい。
- ・ 熱心な教え方を維持してください。教え方は良く、面白いです。また授業を受けたいです。

質問 12 については、学生からももう少しゆっくり話してほしいという指摘があった。これは実習の反省点の一つである。その他には、授業の感想や実習生への今後の期待が寄せられた。

4. 2 授業教員による授業評価

授業担当教員である陶芸先生（中央民族大学外国語学院日本語科長）より実習生の授業に対する評価として、以下のコメントがあった。

吉羽さんと阿部さんはよくできたと思います。第 15 課のユニット 1 の文型（①～と思

海外での日本語教育実習

—中央民族大学との共同による、博士前期課程学生を対象とした日本語教育専門家養成プログラム—

う、②V（よ）うと思う<意志>、③Vる予定で<計画>④～かどうか<選択>⑤Vたことがある<经历>⑥～だろう<推測>とユニット2の文型（①あげる / くれる / もらう <授受>②Vることがある<頻率低>③Vるつもりで<打算>）は多くて、なかなか説明しにくいと思いますが、二人はカードや道具などをたくさん用意しまして、学生の理解に役立ちました。それから、宿題も毎回出しまして、量もちょうどよかったと思います。授業の進み方も早くもなく、遅くもなかったです。

ユニット3は手紙ですが、教科書の内容ではなく、手紙の書き方、封筒の書き方なども教えました。それから、日本から日本の封筒と便箋を持ってきてまして、学生に手紙を書かせました。学生の手紙を添削しました。とても実用的です。

吉羽さんと阿部さんの授業のやり方は中国人の先生と違い、直接法です。学生にとってはとても新鮮で、面白い授業です。

よろしければ、来年またおいでくださいね。大歓迎です。



図8 映画観賞会の様子

4.3 授業に対する自己評価

実習を行ったクラスの学生、教員による授業評価から、普段、中国語を媒介語として日本語を学ぶ彼らには、直接法による授業が大変新鮮に感じられたことがわかった。

実習前は、直接法による授業に対し学生が戸惑ってしまうのではないかという不安もあったが、実習を行ったクラスの学生にとっては新鮮な教え方で学習項目の理解にも役立ったという肯定的な評価を得た。

実習の反省点として挙げられるのは、実習生の話し方である。学生の授業評価アンケートには話す速度について「もう少しゆっくり話してほしい」という指摘があった。実習の様子を録画したビデオを見ても、実習生の話す日本語が速いと思われる箇所があり、学生が教師の発話を理解し授業についていけるよう、話す速度をより意識する必要があった。

また、学生からの指摘はなかったが、学生の発話を待って適切なタイミングで話すことや、指示を出す際の話すタイミングなども改善すべき点があった。これらを今後の課題としたい。

5. おわりに

今回の教育実習は、協定校である中央民族大学日本語学科の全面的な協力のもと実現することができた。

実習生にとっては、実習に向けた教科書分析の段階から教材作成など一連の準備段階を経て、実際に教壇に立つ経験から多くのことを学び大変貴重な機会を得た。また、海外の大学で日本語を学ぶ学生との交流を通して、彼らが普段どのような生活を送り、どのようにして日本語を学んでいるのか、また何に関心を持っているのかについて、直接知ることができた。海外での教育実習を通しこのような機会を得られたことは、今後日本語教育の現場に立つ者として興味深く有意義なものであった。

最後にこの場を借りて、実習校である中央民族大学日本語学科の皆さんにお礼を申し上げます。

注

1) 中央民族大学のパンフレット (2009 年発行) による。

参考文献

- 深澤のぞみ・加藤和夫・志村恵 (2013) 「グローバル人材育成としての日本語教師養成」
『金沢大学留学生センター紀要』第 16 号 p. 1-13
- 深澤のぞみ・太田亨・峯正志 (2013) 「グローバル人材育成としての日本語教師養成 その実践と成果」『金沢大学留学生センター紀要』第 16 号 p. 63-79

分析対象とした日本語教科書

- 『みんなの日本語初級 I 本冊』(1998) スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級 II 本冊』(1998) スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説英語版』(1998) スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説英語版』(1998) スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説中国語版』(1998) スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説中国語版』(1998) スリーエーネットワーク
『初級日本語げんき I 第 2 版』(2011) ジャパンタイムズ
『初級日本語げんき II 第 2 版』(2011) ジャパンタイムズ
『総合日语 I』(2004) 彭广陆・守屋三千代総主編 北京大学出版
『総合日语 II』(2005) 彭广陆・守屋三千代総主編 北京大学出版

海外での日本語教育実習

—中央民族大学との共同による、博士前期課程学生を対象とした日本語教育専門家養成プログラム—

資料 1

<中央民族大学日本語学科 1 年生の時間割>

2012-2013 学年第二学期(两学期) 班级课表 班名:12 日语

节次	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六	星期日	时间
上	第一 节 思想道德修养与法律基础 (1037010006-13) 文华楼东0101 刘树宏 双周上课(1-2节)	现代汉语与写作 (二) (1042040004-01) 文华楼西0107 韩金广 1-18周(1-2节)	日语口语(二) (1042030437-01) 文华楼东0302 通口实如 1-18周(1-2节)	计算机技术基础 (1044010002-10) 图书馆机房图机房 3-2 王莉 1-18周(1-4节)				第一节 08:00~08:50
	第二 节 思想道德修养与法律基础 (1037010006-13) 文华楼东0101 刘树宏 双周上课(1-2节)	现代汉语与写作 (二) (1042040004-01) 文华楼西0107 韩金广 1-18周(1-2节)	日语口语(二) (1042030437-01) 文华楼东0302 通口实如 1-18周(1-2节)	计算机技术基础 (1044010002-10) 图书馆机房图机房 3-2 王莉 1-18周(1-4节)				第二节 09:00~09:50
午	第三 节 综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)	日语听力(二) (1042030435-01) 文华楼西1002 刘艳文 1-18周(3-4节)	计算机技术基础 (1044010002-10) 图书馆机房图机房 3-2 王莉 1-18周(1-4节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)			第三节 10:10~11:00
	第四 节 综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)	日语听力(二) (1042030435-01) 文华楼西1002 刘艳文 1-18周(3-4节)	计算机技术基础 (1044010002-10) 图书馆机房图机房 3-2 王莉 1-18周(1-4节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(3-4节)			第四节 11:10~12:00
下	第五 节 公共体育(二) (1049010002-01) 田径场体育场地 公共体育 1-18周(7-8节)	大学英语(二) (1042010008-03) 文华楼公外教室 公外教师 1-18周(5-6节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(5-6节)	大学英语(二) (1042010008-03) 文华楼公外教室 公外教师 1-18周(5-6节)				第五节 14:00~14:50
	第六 节 公共体育(二) (1049010002-01) 田径场体育场地 公共体育 1-18周(7-8节)	大学英语(二) (1042010008-03) 文华楼公外教室 公外教师 1-18周(5-6节)	综合日语(二) (1042030434-01) 文华楼东0902 陶芸 1-18周(5-6节)	大学英语(二) (1042010008-03) 文华楼公外教室 公外教师 1-18周(5-6节)				第六节 15:00~15:50
午	第七 节 公共体育(二) (1049010002-01) 田径场体育场地 公共体育 1-18周(7-8节)		思想道德修养与法律基础 (1037010006-13) 文华楼东0203 刘树宏 1-18周(7-8节)	民族理论与民族政策 (1037010004-18) 文华楼东0303 陈延斌 1-18周(7-8节)				第七节 16:10~17:00
	第八 节 公共体育(二) (1049010002-01) 田径场体育场地 公共体育 1-18周(7-8节)		思想道德修养与法律基础 (1037010006-13) 文华楼东0203 刘树宏 1-18周(7-8节)	民族理论与民族政策 (1037010004-18) 文华楼东0303 陈延斌 1-18周(7-8节)				第八节 17:10~18:00
晚	第九 节							第九节 19:00~19:50
	第十 节							第十节 20:00~20:50
	第十一 节							第十一节 21:00~21:50

資料 2

<授業評価アンケート>

日本語授業 評価アンケート

12～15日の私たちの授業について評価してください。

学年学科性別

- 1) 勉強した内容はわかりましたか。
よくわかった わかった ふつう あまりわからなかった
わからなかった
- 2) 授業は役に立ちましたか。
とても役に立った 役に立った ふつう
あまり役に立たなかった 役に立たなかった
- 3) 進み方はどうでしたか。
速かった ちょうど良かった 遅かった
- 4) 教え方はどうでしたか。
とても良い 良い ふつう あまり良くない 良くない
- 5) 直接法はどうでしたか。
中国語があった方が良かった 日本語がたくさん聞いて良かった
その他
- 6) 宿題はどうでしたか。
多い ちょうど良かった 少なかった
- 7) あなたはいつも日本語の授業のために家でどれくらい勉強していますか。
1時間未満 1～3時間 3～5時間 5時間以上
- 8) 「あげる」「くれる」「もらう」の授業の内容はどうでしたか。感想を書いてください。
- 9) 手紙を書くという授業の内容はどうでしたか。感想を書いてください。
- 10) 授業の内容で、もっと知りたかったことがあれば書いてください。
- 11) 授業の中で役立ったことがあれば、どんなことだったか書いてください。
- 12) 先生に対する要望があれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。